

令和6年度

自己評価書(前期)

南アルプス市立芦安中学校

芦安中学校 自己評価書（前期）

令和6年9月26日（木）
南アルプス市立芦安中学校

1 自己評価（前期）の経過

- （1）前期教職員対象アンケート及び生徒対象・保護者対象アンケートの実施（7月）
- （2）アンケート結果の考察をもとに職員会議にて改善方策の審議（8月）

※小中一貫校の取組の観点から、評価項目は基本的に芦安小学校との共通で実施。

2 学校評価の分析と課題点

【教職員自己評価の結果から】

〔学校運営・学校経営〕⇒活動の目的の共有と報・連・相を大切に！

- ①すべての活動や取組は、学校教育目標の達成・実現に結びつくものでなければならぬ。そのことを意識して、教育活動を推進していきたい。

- ・学校教育目標の掲示（職員室内・教室内）
- ・各取組・活動のねらいに、学校教育目標のキーワードを入れていく。

（例）「学校教育目標の〇〇の部分達成するために・・・」

- ②お互いの校務分掌の負担を軽減するために、担当教員の負担の大きい行事については、担当教員だけでなく、全教職員で役割を分担する。

（例）登山学習 運動会 白峰祭 生徒会選挙等

⇒ 若手教員の育成・持続可能な学校運営につながる。

- ③教育活動の見直し・改善を進めるために、P D C Aサイクルを回して、今年度中に来年度の原案づくりに取り掛かる。少なくとも、1学期に実施した活動については、見直し・改善が可能である。（担当⇒全教職員で共有・修正）

〔学習指導〕 ⇒ 教員は、授業で勝負する！

- ①子ども主体の授業に向けて、I C Tの活用も含めた個に応じた指導・支援の実施が不可欠。（全校道德の授業にもかかわって）

- ・生徒の関心を高める課題・教材の提示（日常生活と関連をもたせる。）
- ・学習課題提示の工夫（生徒の言葉を使う・選択させる等）
- ・意見交流の場を設定する。
- ・生徒の言葉でまとめる。
- ・振り返りの時間を設定し、自分の学習の状況（学習の成果と課題点）を確認する。

（O P P Aシートが効果的）

- ②家庭学習定着のための端末持ち帰りを進める。
・家庭学習の目的を学校として共通理解したい。

〔生徒指導〕⇒「寄り添う指導」の再考を！

- ①組織的な対応はできていると思うが、「芦安スタンダード」（生活面）を生徒・保護者と再度共有することが必要である。必要があれば、見直しにも取り掛かってよい。（生徒会で話し合うことによって、「自分たち（生徒自身で）で決めたスタンダード」となる。）

- ②学級通信に担任や学校としての思いや願いを載せていくことも必要かもしれない。（校長先生が発行している「学校だより」を参考に！）また、生徒や保護者に読んでもらうための工夫も必要かもしれない。（別紙参考）

〔保護者・地域との連携〕⇒特に地域連携が大切！

- ①地域との窓口は教頭だが、担当を含め全教職員が関わることで、地域とのつながりを深めることができる。
（例）登山・自然体験活動・合唱指導等

〔学校の特色ある取組〕⇒まずは小中の教員同士の交流を増やす！

- ①南アルプス市では、小中一貫校の取組を推進している。まずは、教員同士が交流を深めていくことが必要である。今年度は、担当教員同士で打合せ時間を調整できているようである。小中一貫校のメリットは9年間を通した教育活動が展開できる点だが、現状では、芦安小学校から芦安中学校へ進学する生徒が少ないことがメリットを生かし切れていない一因となっている。また、小中で児童・生徒への関わり方の違いもあり、9年間を通した児童生徒への関わり方を小中で共有、保護者へ説明する必要がある。（「小学校の延長が中学校」ではなく、中学卒業を見通した児童生徒指導が大切）

【生徒アンケート・保護者アンケートの結果から】

【学校生活全般】

- ①全校人数の少ないことがアンケート結果にも表れている。全校道徳や全校体育、全校給食等、学年だけでなく、全校で取り組む活動を取り入れているが、限界もある。ただ、登山学習や小中合同活動等も含め、今後もお互いの気持ちや考えを理解したり、共感したりする活動は今後も続けていきたい。
- ②「芦安小中学校転入学のきまり」を理解した上で入学してきた生徒とその保護者であるにもかかわらず、自然体験活動等の芦安郷育に前向きに取り組めていない生徒がいることが、教職員の指導・支援に迷い・ブレが生じているように感じる。ただ、どの

学校にも、このような特性をもつ生徒は一定数在籍しているので、そのような生徒に対する指導・支援方法を学ぶ・実践するいい機会にはなっていると思う。

- ・活動や取組のねらいや目標は、全生徒で共有する。(学校教育目標との関連も明らかにするとよい。)
- ・一人一人のめあてや目標を設定する。
- ・そのために、この時間はどうするのかを生徒と共有する。(生徒自身に決めさせる。)
- ・自分自身の成長を実感できる支援をする。(人と比べない)

③「先生がコロコロ変わりすぎる」「信頼できる先生がみんな転任してしまった」という意見があるが、課題点は、そのような中でも、持続可能な学校運営組織をつくることであり、そのような環境の中でも、人間関係を築いていくことができる生徒を育成していくことだと思う。

(例) 全校道徳やローテーションSHR(朝の会・帰りの会)等の活用

④小中合同活動が減ったのは事実であるが、持続可能な学校運営をするための必要な措置だと考えている。「昨年度同様にする」ことがよいことではない!ただ、活動を減らした分、生徒の主体的な活動が増えるような取組をしていきたい。

【授業・生活について】

①生徒の発言や発表の機会を増やすことが、生徒主体の授業の実現につながる。段階的に、生徒の発言力を高めていく方法もある。その際、授業の流れも生徒と共有する。

(例) 自分の感想を一文でいう。

感想に理由を追加する。

他の意見について、自分の意見を言う。

他の意見と自分の意見を比べて、違いや共通点を話す。 等

②「短期的な知識・技能」(期末テスト等)が真の学力ではなく、継続して学び蓄えた力が本当の学力である。学校では、同じ内容について繰り返し学習する時間はとれないので、家庭学習で、できなかった問題や課題について理解する時間をとりたい。つまり、家庭学習の目的は、「理解不十分な部分の補習」としたらどうか?数か月後に、同じテストを家庭でもう一度させてみるのもよいかもしれない。

③「学力」とは、認知能力(知識・技能等)だけでなく、「非認知能力」(意欲・思いやり等)も含めた総合的な力であり、学校生活全体(教科学習・行事・委員会・部活等)を通して育ていき、保護者・地域にも、子どもたちの変容や成長について発信していくことが大切である。

④「時間やきまりを守る」必要性や「守らないこと」の影響等について、授業の中で話し合うことも効果的かもしれない。また、常勤教員と比べて、短時間勤務教員や講師

等、触れ合う時間の少ない教員に対して、生徒には「時間を守り授業に臨むことの大切さ」を特に意識させたい。

- ⑤清掃活動については、今年度から活動日を減らしたが、その効果や弊害について確認したい。

【家での過ごし方について】

- ①「早寝・早起き・朝ごはん」が定着できていない生徒が一定数いる。今後も、食事と睡眠の大切さを繰り返し指導していきたい。

【保護者・地域連携について（保護者アンケートのみ）】

- ①「働き方改革」の目的は、生徒に対して効果的な教育活動を提供することである。学校としては、改革が進んだことにより、「教育活動の質が上がったこと」を証明していく必要がある。
- ②PTA活動については、専門部会がない分、保護者が活動する機会は少ないかもしれない。学校としては、単にPTA活動を増やすことは考えていない。ただし、保護者側が子どもたちのために必要だと感じる活動・保護者が主体的に活動できる事業については、積極的に推進していきたい。

※今回、芦安中PTAとして市への要望書を作成したが、その際、PTA会長から、各家庭にアンケートの作成・配付・集計をして、提出していただいた。この活動も立派なPTA活動（主体的な活動）だととらえている。